

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com (No.152)

クラウドサービスの3分類

— アドビのクリエイティブ・クラウドは？ —

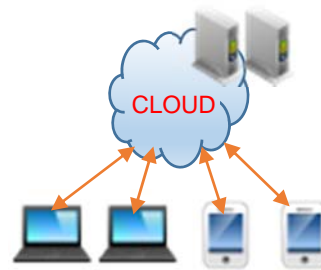
クラウドサービスには、IaaS、PaaS、SaaS の3種類があると言われています。今回は、この3つを概説した上で、印刷業界ではおなじみのアドビシステムズの主力商品であり、クラウドと銘打ったサービスであるクリエイティブ・クラウドはどうかを見てみます。

■ クラウド：そもそもなぜ雲？

手元のコンピュータからではなく、ネットワークの向こう側からサーバーやソフトの機能をユーザーに提供するのがクラウドサービスです。不特定多数のユーザー向けのをパブリッククラウド、特定のユーザー向けのをプライベートクラウドと言います。

このクラウドは「群衆」の crowd ではなく「雲」の cloud です。IT用語の解説サイト等によれば、クラウドコンピューティングという用語を言い始めたのはグーグルのエリック・シュミット氏らしいのですが(異説もあります)、そもそもなぜ雲なのかについては「従来から

システム構成図等でネットワークを雲の形で表す慣習があったから」ということのようにです。



■ オンプレミスと IaaS, PaaS, SaaS

クラウドサービスを使わず、ユーザーがハードからソフトまで自社で用意して業務システムなどを運用することをオンプレミス(on-premises) *と言います。自社運用型とも訳されます。クラウドが普及してくる以前はほとんど使われなかった用語ですが、今ではクラウドの対義語としてよく使われるようになりました。

* premise の単数形は「前提」の意味に限られますが、複数形の premises には「構内」「建物」の意味もあります。

オンプレミスと IaaS, PaaS, SaaS の違いを以下の表に示します。左から右へ行くにつれて、ユーザー側が用意するものが減り、クラウド側が提供するものが増えて行きます。

なお、前述のパブリックとプライベートは「クラウドが共有されるか占有されるか」の違いによる分類ですが、IaaS, PaaS, SaaS はクラウドが提供するサービスの範囲の違いによる分類です。

オンプレミス	IaaS/HaaS	PaaS	SaaS
アプリケーション	アプリケーション	アプリケーション	アプリケーション
実行環境	実行環境	実行環境	実行環境
ハードウェア	ハードウェア	ハードウェア	ハードウェア

黄色の所 : ユーザー側が用意
水色の所 : クラウド側が提供

1) IaaS

IaaS は Infrastructure as a Service の略語で、イアース、アイアスなどと読みます。HaaS (Hardware as a Service、ハース) とも呼ばれます。サーバー等のハードウェアだけをクラウド側が提供し、後述の実行環境とアプリケーション(以下アプリと略)はユーザー側が用意する形態です。アマゾンの AWS (Amazon Web Services) が IaaS の代表格です。

2) PaaS

Platform as a Service の略で、パースと読みます。ハードウェアに加え、実行環境もクラウド側が提供します。実行環境とは、OS（Windows や Linux など）、ミドルウェア（データベースソフトなど）、プログラミング言語などを指します。これらを自前でセットアップするのは結構な手間なので省きたいがアプリは自社開発したいという企業向けです。アマゾン AWS の PaaS 版、マイクロソフトの Azure(アジュール)などが代表的な PaaS です。

3) SaaS

Software as a Service の略で、サーズと読みます。アプリまでクラウド側が一括提供します。ユーザー側にはネット接続できるPCなどの端末さえあればよいという形です。代表例としては、営業支援／顧客情報管理機能で有名なセールスフォースドットコム社の Sales Cloud が挙げられます。同社は SaaS の草分け的存在とも言われており、クラウドサービスといえまざは同社の名前が思い浮かぶという人も多いのではないかと思います。

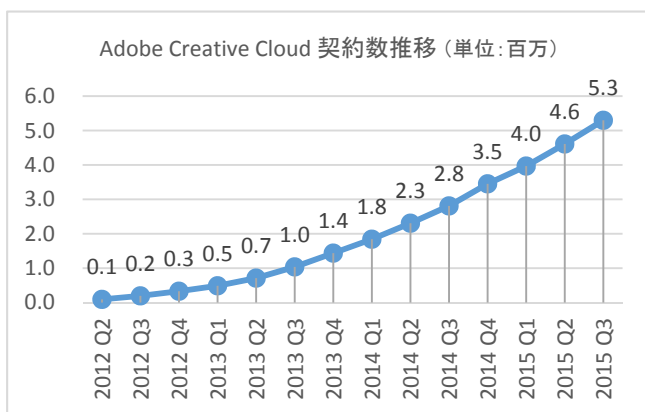
ここで言う「アプリの提供」とは、「アプリのプログラムをダウンロードしてインストールする」ことではなく*、アプリの「機能」をオンラインで提供することを指します。（*インストールを要するタイプの SaaS もありますが、説明は省かせていただきます）

「機能」といってもピンと来ないかもしれませんので、例として集計表の作成を考えてみます。PC にインストールされている Excel を使う場合、表計算は手元の PC が行いますので、ネット接続しないオフラインの作業が可能です。一方、Excel がなくてもブラウザとネット接続環境があれば、Google Apps のスプレッドシートのようなオンラインアプリをブラウザから利用する手があります。この場合、表計算は PC ではなくグーグルのサーバーが行います。プログラムではなく「表計算という機能」をユーザーに提供している訳です。

オンラインアプリという用語が出てきましたが、これはクラウドアプリ、Web アプリと同義語であり(厳密には違いがあるのかもしれませんが、大まかに見れば同じです)、このようなアプリを提供するのが SaaS です。対するに手元の端末で動作させるアプリは、ローカルアプリ、ネイティブアプリなどと呼ばれます。

■ アドビのクリエイティブ・クラウドは？

アドビのクリエイティブ・クラウド(以下 CC と略)が好調です。以下のように契約数を増やしており、2015 年第3四半期末(8月)には 530 万を突破しました。



CC に含まれるツールやサービスをアドビは以下の三つに分類しています。

- ① デスクトップアプリ
- ② モバイルアプリ
- ③ サービス

③にはオンラインストレージやWebフォントといったクラウドならではのサービスがあるのですが、問題は①と②です。①は MAC や Windows に「インストールして」使うアプリ、②はタブレットやスマホに「インストールして」使うアプリです。これでもうお分かりかと思いますが、①②は SaaS ではありません。これは筆者の独断ではなく、アドビ自身が「CC はクラウドアプリ、Web アプリ、SaaS ではない(だから常時接続してなくても使えますよ)」と言っています。

①には InDesign、Illustrator、Photoshop といった DTP の定番ソフトが含まれるので、印刷業界が CC を導入する主目的は①なのですが、その①においては、クラウドという名は体を表していないのです。ただし、料金の払い方が売切り型ではなく月額課金制である点はクラウドサービスの流儀です。

以上

(第 152 回: 2015 年 10 月 26 日)